

第3回葛飾区都市計画マスタープラン策定委員会 議事概要

日時：平成22年3月26日（金）午前10時～12時

場所：ウィメンズパル多目的ホール

出席者：別表参照

議事内容

1. 開会

事務局より、配布資料の確認を行った。

2. 委員長あいさつ

3. 議事

報告事項として、事務局より以下の資料説明を行った後、質疑を行った。

(1) 資料2 地域別勉強会、ミニシンポジウム等の開催報告

(2) 資料3 地域別勉強会での検討に基づく各地域の将来像・まちづくりの基本方針・整備方針図の案について

委員長 資料2・資料3の内容について、質疑をお願いします。

A委員 各地域の将来像やまちづくりの基本方針など、大変良い内容であると思います。道路など交通ネットワークについては、近隣の区とも連携しながら、より良いネットワークを整備して頂ければと思います。ただし、公共交通機関については不便な面もあります。葛飾区内を鉄道だけで移動しようとした場合、南北の鉄道軸がないため、山手線の駅など、いったん都心に出てから、また戻る形で目的地に向かう必要がある場合があります。東京理科大が誘致され、これから多くの学生などが葛飾区に来ることになるので、公共交通をもっと充実させるような配慮が必要だと思います。

中川の整備も進んでいますが、住民としては災害の問題が一番の気がかりです。今後は、スーパー堤防や防災に資する公園整備にも配慮して頂ければと思います。

委員長 ご意見ありがとうございます。他にありませんでしょうか。では、B委員から、ミニシンポジウムのご報告をお願いします。

B委員 ミニシンポジウムですが、皆さんからは、中川や、南北の交通ネットワーク・新金線などが主な話題として出ました。新金線については、社会資本ストックとして考え、JRや周辺の自治体とも協議しながら活用方策について考えていくこと、また、全体計画が必要であることなどが議論としてありました。私の方からは、持続可能な社会環境について、特に子供を産み、育てられる環境についてお話をさせて頂きました。先ほどご発表頂いた資料2のアンケートの結果でも、そういう声が寄せられていますので、関心の高い方が多いと思われる。少子化対策などのソフト施策も、実は道路整備などのハード施策と密接にリンクしています。国土交通省も、子育てしやすい道路づくりを進めようとしています。これからは、地域で子供を育てていくことを念頭においた住環境や緑地等の環境のあり方を考えていくことが重要であると思います。

委員長 ご報告ありがとうございました。その他、ご質問等ありますでしょうか。では、協議事項について移らせて頂きたいと思います。まず最初に、拠点設定の見直し等について事務局より発表をお願いします。

報告事項の発表のあと協議事項の発表を行った。協議事項は前半・後半に分けて行い、前半は事務局より以下の資料説明を行った後、質疑を行った。

(3)資料4 都市計画マスタープラン策定委員会意見を踏まえた拠点設定の見直し(案)について

委員長 協議事項の「都市計画マスタープラン策定委員会意見を踏まえた拠点設定の見直し(案)」について、ご意見・ご質問をお願いします。

将来都市構造見直し案では、凡例のところに広域複合拠点などといった一般名称しか書かれていませんが、将来的には「複合拠点」などといった言い方になるのでしょうか。

事務局 将来都市構造図の中では、広域生活拠点や広域複合拠点といった名称になるのですが、それに加えて、圏域など、拠点の広がりを示すものを検討したいと考えています。地域生活拠点の場合、駅周辺という表現はじっくりくるのですが、広域生活拠点としているところでは、駅周辺という表現があまり適切でない部分もあります。例えば金町駅周辺であれば、金町・新宿圏域などといった表現を検討したいので、ご意見を頂ければと思います。

委員長 今まで金町駅周辺という言い方だったものが、新宿に大学が新設され、まちづくりの方向がはっきりしてきたこと、拠点が広がっていることから、金町・新宿圏域という考え方が出てきたということです。文化レクリエーション拠点、アメニティ拠点など、拠点という言葉は他にも広く使われていますが、賑わいの拠点ということ言えば、広域複合拠点・広域生活拠点・広域行政拠点・地域生活拠点、この4種類で拠点構成を考えていきたいと思いません。

それでは、次に拠点を繋ぐネットワークの見直し方針ですが、水辺の賑わいと交流を作りだす軸として、新たに中川・新中川を位置づけるということです。それにより、これまで以上に中川・新中川の整備を進めていきたいということでもあります。

それから、鉄道を都市間ネットワークとして、道路を地域間ネットワークと位置づけています。新金線の話も、都市間ネットワークとしての位置づけについて、今後議論があると思います。

また、現都市マスで触れていた、コミュニケーションネットワークは、民間ベースの事業であるのが実際であるため、今後の葛飾のまちづくりの議論の中では外してはどうかという提案がありました。そのため、ネットワークの議論で主となるのは、鉄道・道路・河川の3つであります。

新しく、中川・新中川を位置づけるということはよろしいでしょうか。両岸が区内であり、区の真ん中を流れているこの川を阻害要因とみるのではなく、この川を軸としてもっと活性化していくということでもあります。

- A 委員 現在、中川の堤防の内側に遊歩道を整備して頂いており、これから川への親水性が高まっていくことが期待されます。しかし、周辺の住宅では、川の高い堤防に遮られ、中が見えないので、防犯の面で不安があります。
- 交通安全については、横断歩道の問題があります。横断歩道は、青信号で渡った先には赤信号で待っている人が固まっているので、人が錯綜している上、最近、自転車の数も増えているので危険が高まっていると思います。横断歩道をずらして作ればよいと思います。
- 委員長 自転車は、歩行者から見えれば交通強者と言えます。葛飾区は自転車が多いこともあり、ネットワークのすみ分けを考えることも重要だと考えます。ご指摘を踏まえて検討したいと思います。
- B 委員 それは大事な観点だと思います。中川の親水性についても大事な話であり、スーパー堤防の整備は 100 年の事業です。
- 葛飾区は水害の危険のある地域ですが、川の手に住んでいるということは非常に大事なことです。ヨーロッパでは川で泳ぐなど、自然環境へのアクセスを求める志向が強くなっており、都市間競争の上でも非常に重要な要素となっています。また、市民運動でも川の浄化に取り組んでいる例が多く見られます。
- 中川でのハード整備については、河川の道路整備だけでなく、周辺の住宅等との一体的な整備も大事だと思います。北九州市のマイタウン・マイリバーの取り組みでは、紫川という川に面した開発を行っています。中川を軸に考えることは、マスタープランを策定する上で非常に重要な項目であると思います。
- また、江戸川・荒川とともに、中川沿いは自転車の通行空間として非常に気分がよいところであると思います。ジョギングも含めて、レクリエーションとしての要素と健康づくりをどう絡めていくか、また、川沿いの道と、それ以外の人・自転車のための道をどうネットワークしていくか、こういったことが大きな戦略となると思います。
- その中で、マイカーをできるだけ抑制すること、これを区民の皆さんに徹底していくことが大事です。車中心の道路づくりからの脱却は、国交省でも力を入れ始めていますが、道路で安心して人とコミュニケーションがとれることも大事です。
- 道路の役割に合わせた階層化と、生活道路を区民のコミュニケーションの場に戻していくことを細かく描いていくことが大事なことであると思います。
- 事務局 中川の河川整備について補足をさせていただきます。先ほどのお話にもありましたが、耐震補強に合わせてテラスの整備を進めていますが、コンクリート護岸でありますので、周辺の地域からは見えない状況にあります。これを改善していく上では、最終形はやはりスーパー堤防だと思いますが、100 年、200 年の事業になりますので、少しずつでも市街地から河川への連続的な空間を作っていくことが大事だと思います。

そのため、河川軸の形成の中で書いております、沿川のたまり空間の確保を提案しているところでございます。例えばですが、完成形としては、東立石緑地公園があります。そういう空間を中川沿いに少しずつでも増やしていこうという提案をさせて頂いております。また、今年度に最下流のところのテラスが完成しますので、夜間のパトロールを地域で行って頂くような取り組みについても、話が出ているところでございます。

一点、修正点がございませう。先ほどの将来都市構造図の凡例の中で、広域複合拠点と広域生活拠点の色の部分について修正すべき点がございませうので、のちほど修正させて頂きませう。

C委員 水と緑について、お花茶屋から亀有に向かって曳舟川親水公園がありますが、両側が道路に挟まれているため、親水性という部分では残念なところがあります。将来的には、この道路についても親水性に配慮した形で整備して頂ければと思います。

また、先ほどのお話にもありましたが、江戸川沿いには立派なサイクリングロードが整備されていて、非常に気持ちが良いのですが、これを知らない区民の方が多いように思います。ですので、区民に対してもっとPRをして頂ければと思います。また、サイクリングロード沿いに、休んでコミュニケーションが取れるようなスポットがもっとあればよいと思います。

委員長 堤防沿いのサイクリングロードは、走っていると非常に見はらしがよくて気持ちが良いのですが、市街地からは見れば高いところにあり、堤防の影になってしまうことから、市街地側からすれば問題があるということもありますので、どちらかだけではなく、一体として考えていくことが大事であると思います。

また、サイクリングロードは非常に気持ちが良いのですが、マラソンをしている人がいる横を、スポーツタイプの自転車が猛スピードで走っていくなど、危険な面もありますので、自転車と人のすみ分けが必要と思われるところがあります。

お花茶屋の曳舟川親水公園ですが、道と緑が一体となっているところであります。道路の構造を変えるのは難しいですが、少し工夫すれば変えられる部分はあり、親水性を高めることは可能であると思います。

中川が市街地を分断しているという問題については、人や自転車だけが通れる橋を作れば、中川の阻害要因が薄くなるのではないかと思います。これについては、河川管理者は嫌がるかもしれませんが、区が許可を得て、区が整備することも将来的には考えていき、賑わい交流に資する河川の使い方ができていけばいいと思います。

そのような課題も含めまして、水と緑のネットワークについて、中川を中心として大きく見直していくという方針でありましたが、概ねご賛同頂き、更にもっとよいものにするようにというご意見を頂いたと理解してよろしいでしょうか。

一同 (異議なし)

委員長 それでは、ネットワーク見直しの方針について、概ね今日報告頂いた方向で、更に今後検討していくとさせていただきます。

B委員 高砂の位置づけについて、広域生活拠点に格上げというお話ですが、ここは成田に直通する新しい鉄道との結節点でもありますし、外国の方からも、非常に魅力があると思われる柴又にも近いことから、国際化への対応ということで、ポテンシャルが高いところであると思います。外国から人を集めるということでは、外国人労働者の問題もありますが、これについては教育が非常に大事になってきます。スイスでは、外国人労働者の親世代は、言葉の問題などで苦労も多いのですが、子供たちはスイスの言葉話し、スイス人としてのアイデンティティも持っています。日本はこれから少子化への対応などが大事になってきますが、対アメリカだけでなく、対アジアの諸国への対応を含め、どのように経済・文化圏を形成していくかが非常に大事になってきます。それがまちの形態にどのように影響を与えてくるのかも考えておく必要があります。早い段階で、国際化への対応をしていくことが都市計画の中で必要になってくるかだと思います。そういう意味で、高砂は将来的には複合拠点となるポテンシャルがあるのではないかと思います。次の見直しでは、そういった議論もできるかだと思います。

委員長 高砂は、資料4のP.2に、高砂駅周辺を広域・区レベルの拠点として位置づけると書いてあり、その理由の3点目のところに、都営団地の建て替えや京成電鉄高砂車庫の移転により、駅周辺で様々な機能の立地需要を受け止めることができる大規模な用地が創出されるとあります。この大規模な用地をベースに、賑わい拠点づくりが可能になるということで、今回、広域生活拠点への位置付けることが案として出されたところです。高砂駅の現状は、通過する人や乗換に使うだけの方が大半であると思いますが、今後は、いかにこの駅で降りてもらえるようにするかが大事であると思います。

休憩のあと、協議事項の後半として、事務局より以下の資料説明を行った後、質疑を行った。

(4) 資料5 全体構想について

委員長 では、全体構想の部分について、ご意見・ご質問をお願いします。

D委員 資料5のP.28に、安全まちづくりの方針とあり、災害に関する記述がありますが、具体的な話として考えて頂きたいのは、警察や消防が2箇所ずつで足りるのかということです。都内に、警察と消防が100箇所ずつ必要であるとすれば、葛飾区の人口が43万人であることを考えると足りないような気がします。消防団の人員の充足率も9割程度と十分ではない状況と聞いています。警察も消防も区の管轄ではありませんし、この話は具体的過ぎると思いますが、まちづくりに関係する問題だと思しますので、お話をさせて頂きました。

委員長 消防は本来自治体の管轄なのですが、特別区については、東京消防庁として、都が一括管理をしています。警察についても、警視庁となっており、その中で署の配置になりますので、警察署や消防署を増やすというのは簡単ではないと思いますが、出張所など、一番身近なところと地域がうまく連携して、

安全・安心に資するまちづくりに繋げていけるよう、今後検討させて頂ければと思います。消防は大きな火災も減っていることから、予算も減っていると聞きますし、消防団も人手不足ですが、地域住民だけでなく、企業の協力も得て在勤者の方にも、また大学生にも参加して頂くことも必要になるかと思えます。東京理科大が誘致されましたので、この方たちに区内に住んで頂き、活動に協力して頂ければと思います。

E 委員 中川の話がありますが、川へアクセスする際には堤防を越えなければなりません。一方、堤防の下をくぐって川へアクセスできる動線は整備できないわけで、国道6号線など、大きな道路を渡る必要が出てきます。

大きな道路を渡るのは、安全面などで問題もありますので、地域の内側から川へアクセスできるよう、その土地の地形を活かした動線づくりが必要ではないかと思えます。川と緑のネットワークということでは、サイクリングロードなど、川べりのネットワークがあり、サイクリングロードで繋がっている水元公園と柴又の寅さん会館ではレンタサイクルもやっています。柴又から水元公園、さらに足立区の舎人公園や江戸川区の公園など、周辺区とも連携し、水と緑のネットワークを広げていくことが大事であると思えます。

委員長 水と緑のネットワークや、自転車・鉄道のネットワークづくりがありまして、それらの関係づくりの中で、川と人を繋ぐ際に、大きな道路との交差点をいかに安全にパスさせるかというのは非常に大事な問題であると思えます。

C 委員 P.33 の産業活動をささえるまちづくりの方針のところにある、観光の活性化についてですが、立石には仲見世商店街という、昭和レトロの雰囲気を持つ商店街があります。ここは再開発の話もありますし、防災性の面で問題もあるのですが、この商店街を資源として、月島のように人を呼び込むことができなんでしょうか。B級グルメなど流行っていますが、もつ焼きなどは大きな集客材料になると思えます。また、この商店街に、葛飾の地場産業であるセルロイド製品やブリキのおもちゃを売る商店など、昭和レトロと下町人情を感じさせる、葛飾のアンテナショップ的な商店街を作り、区のアピールに繋げるようなことも展開できないでしょうか。

観光の活性化とまちづくりについては、岩手の遠野市や福島の高田市の喜多方市が有名ですが、遠野も元は1人の語り部の方が公の場で語り始めたのがきっかけですし、喜多方も、始めは他の都市と比べてラーメン店が少し多いぐらいのものだったと聞いています。始めは小さいものでも、育てて大きくしていけるのではないかと思います。

委員長 食の力というのは非常に大きいものがあり、特に若い人を動かす賑わいづくりには大切になってくるかと思えます。立石については、地域別勉強会の議論では高齢化対策の話が大きく出ていましたが、こういった分野の話も大事であると思えます。

F 委員 C委員のご意見に補足させていただきますが、立石の仲見世商店街は、地域資源としても大事なところであるのですが、仲見世商店街のある町目というのは、東京都内の5000町目のうち、防災面で問題がある町目の上位60数位に位置

するところとなっています。しかし、やはり貴重な資源であると思いますので、安全性に配慮しながら、どうやって残していくかを考えていく必要があります。例えば、青森の駅前には、再開発で地下に商店街を残した取り組みがあります。何とかして商店街を残す形で整備していければと思います。

C 委員 豊富な知見をお持ちの方にアドバイスを頂ければと思います。

B 委員 大阪の梅田駅では、地下に商店街を残しました。しかし、形を残すことはできても、人を残すことは非常に難しいものです。お金がなければ、移ることができませんし、また、食は人が作るものですから、必要によっては制度の枠を超え、余程うまくやらないと残すことが難しいと思います。

私が関わった飯田市では、蔵をパティオとして残しましたが、当初はできないとの声が大半だったものが、地域の人が勉強しながら、自分たちが努力して取り組んでいったものです。そうしなければつくり得ないものだと思います。立石の商店街を残していくことは大事なことです。しかし、それには相当のエネルギーが必要だと思います。

委員長 人口減少時代をむかえており、今後ボリューム志向のまちづくりは難しくなっていくと思います。国でも身の丈にあったまちづくりを重視する方向に進みつつあります。四国の高松では、中心商店街が連携して再開発に取り組んだ事例があります。

G 委員 総合計画など、他の計画と違って、都市マスでは、空間像をしっかり描いた方がよいと思います。どういう空間像に地域の魅力があり、どういう空間像がうまくいっていないのか。先ほどお話にあった、交差点での自転車と人の錯綜などは、空間像を描くことにより、文章で方針を書くだけでは見えてこない部分が見えてくると思います。今は二次元の図面になっているので、生身の人間が暮らしている生活空間としてはどういう捉え方をすればよいのかというところを次の段階としてはやっていくことが重要であると思います。もう1つは、空間の履歴・歴史が重要ではないかと思います。今の空間ができるに至った背景を少しずつ探っていくと、なぜそういった空間ができてきたのかが見えてくると思います。それにより、葛飾区にとってどれほど川が重要で、川が都市形成にどのように影響してきたかが分かるのではないかと思います。

P.22 に水と緑のネットワークという図面があります。水と緑というのは、ここでの表現より、もう少し広がりがあって、そこからまちづくりをどう展開していくのかということに繋げていける可能性があります。

現状として、このような水と緑があることを示すのも重要ですが、それをどう次に活かしていくのか、方向性・方針を示していくことが大事で、水と緑が近くにある拠点は、このような形で展開するというような図面を作って頂ければより良いと思います。

- 委員長 都市空間を立体で描けばイメージしやすいですし、平面では、人によって描くイメージも随分違って誤解も生じるでしょうから、もう少しまちの形が立体で見えるような工夫をしてみることも大事だと思います。
- C 委員 G 委員のお話を伺って、立石の商店街も、昭和レトロというイメージを具体化、立体化した空間像というところがあるのかなと、考えるところがあります。
- H 委員 産業界の代表として来ていますので、産業についてお話したいのですが、P.33の産業活動をささえるまちづくりの方針のところでは、20年後を見ると、葛飾区の製造業はどうなっているだろうか、20年後にはなくなってしまうのではないかと危惧されます。産業の活動が停滞した国は、ギリシャを見てもそうですが衰退していきます。
- 我が国はいずれにせよ、外貨を得て食べていく国になっていくことは皆さん周知のことかと思えます。国を支えていくという考え方から見ると、ここに書かれた方針では弱い部分があると思えますので、皆さんに知恵を出して頂いて、活力のある製造業を作っていければと思います。
- 委員長 P.24にある、生活圏のイメージの図への対応としては、P.33の産業活動をささえるまちづくりの方針でまとめた記述では弱いかもしれません。「工」を残していくためにはどうするべきか、もう少し示していく必要があります。その大きなきっかけとしては、誘致された東京理科大があります。このキャンパスには工学系の学部もありますので、理科大と連携した新しいものづくりなど、まちづくりに繋げていけるような可能性が大きく高まってきたことから、それらを踏まえた記述をしていく必要があります。また、理科大との連携により、区内の事業所が活性化していく必要がありますので、それについては逆に、H委員からもご指摘頂いて、検討させて頂ければと思います。
- I 委員 中学校のPTAを代表して来ていますが、小中学校に話しておくべきまちづくりの話としては、特にどういったものがあるでしょうか。
- J 委員 土地利用の部分については、P.34に勉強会での意見が出ていましたが、これに加えて議論したいこととして、幹線道路沿いに工業を誘導できるエリアのところの話があると思えます。環7や四つ木通りについては、土地利用や高度制限といった話があります。お花茶屋のところは、景観的な資源があるので、景観的な土地利用を考えることができるかどうか検討する必要があると思えます。今言ったように、特に大事なことは2点あり、1点目は、産業的なものを誘導する土地利用をどうしていくか、もう1点は景観的なところに配慮すべき地域の設定をどうしていくか、ということです。
- K 委員 子供にやさしいまちづくりということについて、P.7のまちづくりの主要課題のところ記述があるのですが、あまり具体的な話が入っていないように思えます。以前、B委員が仰っていて、道路で遊んだり会話ができるようにするなど、そういう部分をイメージしたものを、ここに加えて頂きたいと思えます。
- もう1点、先ほどお話に出ました立石の仲見世商店街ですが、昭和レトロの

霧囲気を残した商店街を残すには、早めに手を打って頂きたいと思います。

L 委員 荒川・江戸川に加えて、中川がネットワークに加わりましたが、まち側から見た川というものだけでなく、川側から見たまちというものもあると思います。これを観光資源として活用することができるかどうか。隅田川ですと、水上バスがあり、商業ベースにのっています。江戸川の場合はどうだろうかというところがあります。

省エネ対策についてですが、太陽光を導入する際に、戸建て住宅には補助がありますが、集合住宅へも補助ができるようにする必要があるかと思えます。これがあれば、例えば高砂の団地の建て替えの際にも活用できると思います。

事務局 ご質問にありました、小・中学校の PTA としての視点ですが、例えば安全・安心の視点を例にお話しますと、これまで区では道路や公園の外周に樹木を密に植えてきましたが、PTA の方々の「犯罪危険地図」の作成の取り組みなどから意見を頂き、高木の下枝を伐採したり、中木を撤去したりすることで、児童が確認しやすいように見通しを良くするなどの取り組みを実施いたしました。また、先程話のあった路地で遊べるようにするための取り組みについては、交通規制の話もありますので、関係機関と連携しながら進めることが必要ですが、このことについても PTA の立場からの意見をいただければと思います。人にやさしいまちづくりということでは、これまでは高齢者や障害者に対するバリアフリーの視点が中心でしたが、子供の視点も入れていくことが今後重要になるのではないかと思います。PTA の方からは、特に子供の安全・安心など、親の立場としてのご意見を頂ければと思います。

委員長 P.28 に人にやさしいまちづくりの方針があり、改定の視点として、子供にやさしいまちづくりの観点からの記載の充実とあります。特に、ここに関するご意見を頂きたいというご説明でした。また、この部分は、P.37 の住宅・住環境整備の方針のところにも関係するので、加筆をしていくこととなります。環境に配慮したまちづくりとしては、例えばエコポイントを使ったまちづくりなども大事でしょうから、こういったこともしっかりと位置づけて頂ければよいかと思います。

P.25 の将来都市構造のネットワークのところですが、隣の区への矢印は途中で止まってしまっていますが、例えば新小岩駅は江戸川区の、綾瀬駅は足立区の利用者がかなり多いと思いますし、他区から人を呼び込むことは非常に大事ですので、大きな流れ・ネットワークで考えて頂きたいと思います。それでは時間になりましたので、本日の委員会はこの辺で終了させて頂ければと思います。事務局より、その他連絡事項等があればお願いします。

4. その他

- ・事務局より、資料6の来年度のスケジュールについて、当初は3回を予定していたが、4回とさせて頂くことを説明した。
- ・次に、資料7の各委員会の日時・場所等について説明を行い、次回の第4回委員会については、区の都合で日時を変更させて頂くことを説明した。

- ・次回委員会の日程等の詳細については、のちほど事務局より各位にお知らせすることを報告した。

5 . 閉会